

事例 8

ほ場整備による国道用地の創出

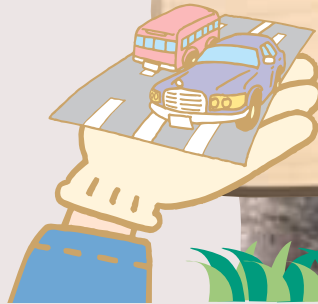
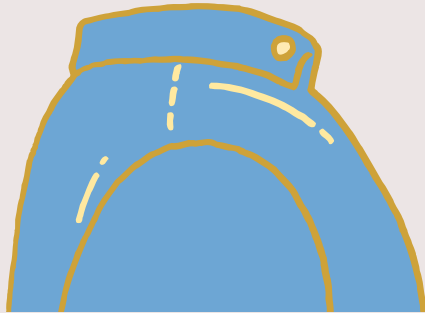
～ほ場整備事業(一般型)本庄地区～

[松江市]



【地区の概要】

事業年度	昭和62年度～平成12年度
事業費	1,115,000千円
事業内容	区画整理 60.4 ha 暗渠排水 56.8 ha



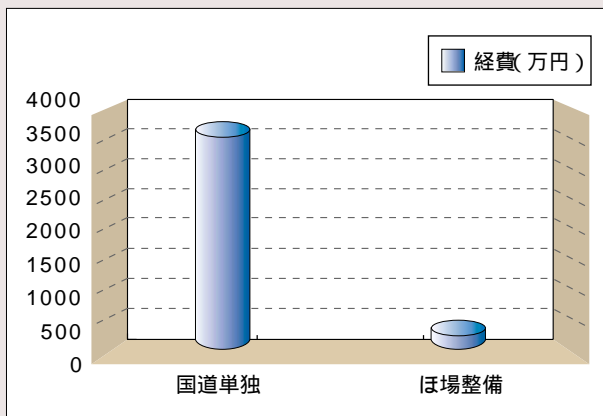
本地区は、島根半島の東寄り枕木山の麓に位置する松江市近郊の水田地帯です。ほ場整備を行うことにより水田の汎用化を図り、土地利用の向上、農作業の機械化による農家経済の安定を目指すことはもとより、出雲・松江地域の大動脈である国道431号バイパス用地を換地により創設することで、都市近郊では難しい国道用地が確保でき、計画的な土地利用が行われ、国道バイパス工事も順調に進んでいます。

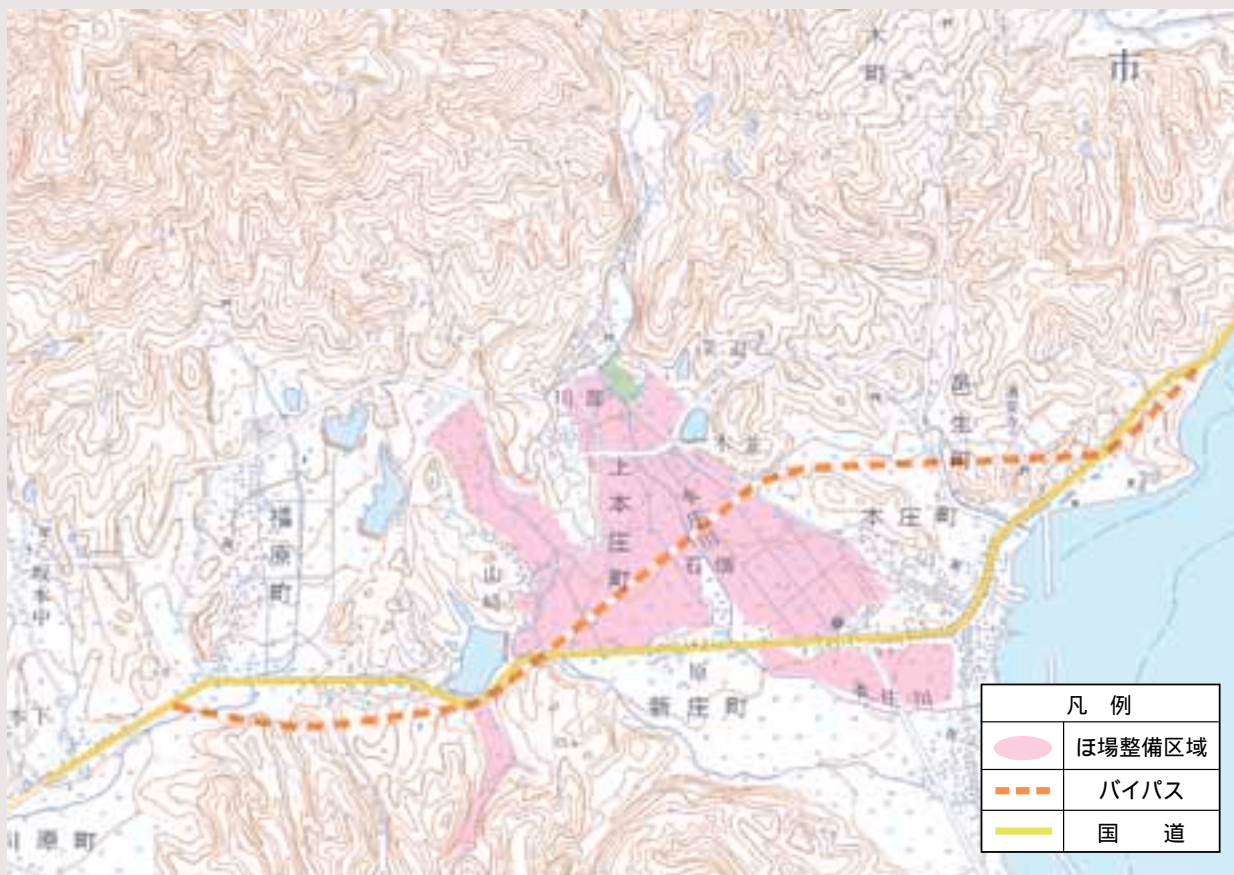
国道431号バイパスは、敷幅25～30mの4車線

地区内の約1km(約3ha)を非農用地としてほ場整備事業で創設

これにより、国道整備は、独自に用地を取得する場合より、用地交渉経費、測量経費などが節減され、工期も短縮

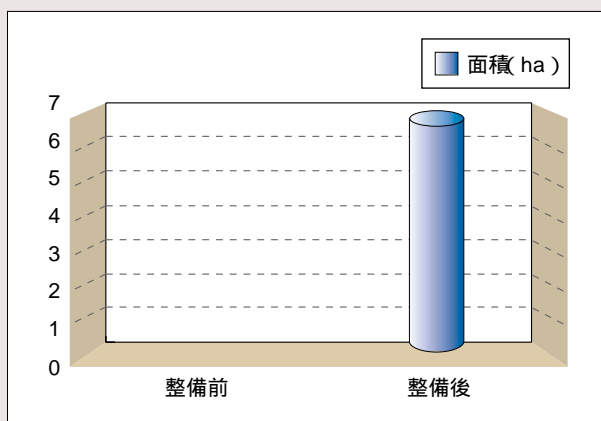
用地取得経費の節減(節減額 3,300万円)





農作業受委託面積の増(0ha 6.5ha)

ほ場整備を契機に、以前は無かった農作業の受委託が進みつつあります。



地区内で始まった「玄丹そば」の栽培
「玄丹そば」: 明治維新时期に松江藩の危機を救った「玄丹おかよ」にあやかり、「減反」にかけて命名